

All to brighten the world

FURUKAWA
ELECTRIC

各都道府県の道路標識などの道路附属物の 老朽化状況に対する住民アンケート（第3弾）

古河電気工業株式会社

アンケート調査概要

古河電気工業株式会社（本社：東京都千代田区大手町2丁目6番4号、代表取締役社長：森平英也）と国立大学法人東北大学 久田研究室（以下：久田研究室）は共同で、道路標識や標示などの道路附属物の老朽化状況についての都道府県住民アンケートを実施しました。

<調査背景>

道路標識や街路樹などの道路附属物は、日本全国で約1,000万本以上存在し、近年では老朽化にともなう倒壊事故も発生しています（別添の調査詳細資料に、「近年の道路附属物の事故一覧」を記載）。今後、労働人口がさらに減少することが予想されるなか、標識などの道路附属物においても効率的なメンテナンス方法の確立が求められています。

古河電工と久田研究室は標識などの道路附属物の効率的なメンテナンス方法を共同で研究していますが、住民通報からメンテナンスすべき道路附属物が明らかになることも多いため、これまで以下2回の調査を実施しました。

- ・第1弾 2024年12月：道路附属物の老朽化に対する全都道府県の住民の認知状況等を調査
 - ・第2弾 2025年8月：第1弾調査で「修繕を必要とする道路附属物を目にする」との回答が特に多かった10県における全156市を対象に調査実施
- 第3弾となる今回の調査では、2024年12月と同様に全都道府県住民を対象にアンケートを実施し、1年間で住民の道路附属物の老朽化の認知状況等に関する変化を調査しました。

<調査概要>

- 調査方法：インターネットによる調査
- 調査対象：全国20代～60代の男女（7,050名（各都道府県150名ずつ））
- 調査実施期間：2026年2月16日～17日
- 調査機関：株式会社電通マクロミルインサイト

<調査トピックス>

- ✓ 全都道府県において回答者の約5割が老朽化した道路附属物を認知しており、もっとも認知度が高かった都道府県は2024年12月実施調査と同じく沖縄県となった。
- ✓ 回答者の約3割が「自治体は道路附属物のメンテナンスを実施していると思わない」と回答し、約8割が「自治体は道路附属物のメンテナンスに積極的に取り組むべきだと感じる」と回答
- ✓ 近年事故が多く発生している街路樹に関する管理方法についても点検や劣化のサインを捉えることを望む回答が約6割となり、街路樹に関してもメンテナンスを望む住民意識が明らかとなった。

アンケート調査の総括

<東北大学久田真教授（東北大学大学院工学研究科）による調査の総括>



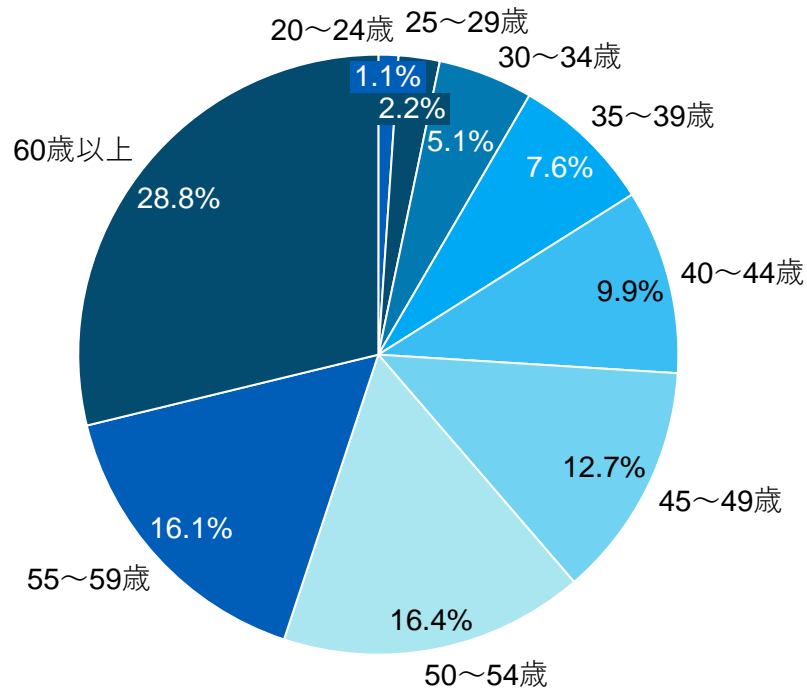
今回は第1弾調査と同様に、全都道府県住民を対象に道路附属物の老朽化に関するアンケートを実施することで、1年間での住民認知状況の変化を調査しました。この間も道路附属物に関連する事故は発生しており、特に街路樹に関連する事故が多かったことも踏まえ、今回より街路樹の管理状況についても調査を行っています。

その結果、各都道府県において回答者の約5割が道路附属物の老朽化を認知していることが分かりました。第1弾と同様の認知状況であることから、各都道府県の道路附属物について、住民目線でも一定の老朽化が確認されていることが明らかとなりました。特に老朽化が進んでいると感じている住民がもっとも多かったのは第1弾と同じく沖縄県で、道路附属物の老朽化によるリスクが高い可能性が示唆されます。

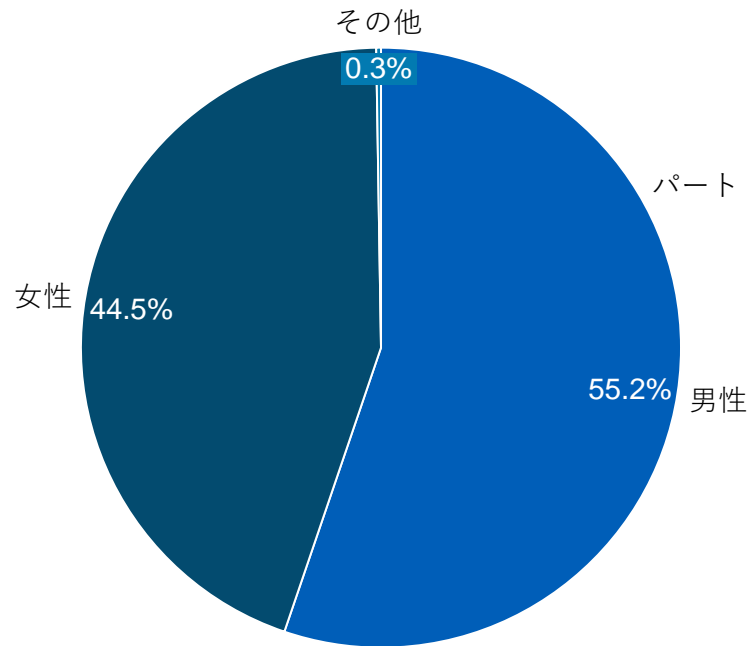
各都道府県における附属物のメンテナンス状況についても、第1弾と同様に約8割がメンテナンスを強化すべきと考えている一方で、約3割が道路附属物のメンテナンスがされていないと感じています。また街路樹の管理については「劣化のサインを捉えてその段階で剪定する」「人が多く通る道を頻度高く点検する」という回答が約6割であることから、街路樹を含む道路附属物に対して、予防保全の考え方でメンテナンスをしていくべきという住民意識があることも分かりました。

道路附属物へのメンテナンスを望む住民の声が多い一方、自治体のリソース不足により適切な維持管理の実施が難しいというのが実情だと認識しています。DXソリューションの活用により自治体側の保守点検業務の工数削減にも寄与する事例も出てきていることから、DXソリューションによる点検業務の標準化や省力化を支える仕組み作りを検討していくべきだと考えています。今後も久田研究室では、古河電工と共同でより効率的な管理・メンテナンス手法の研究に加え、調査を実施してまいります。

年齢

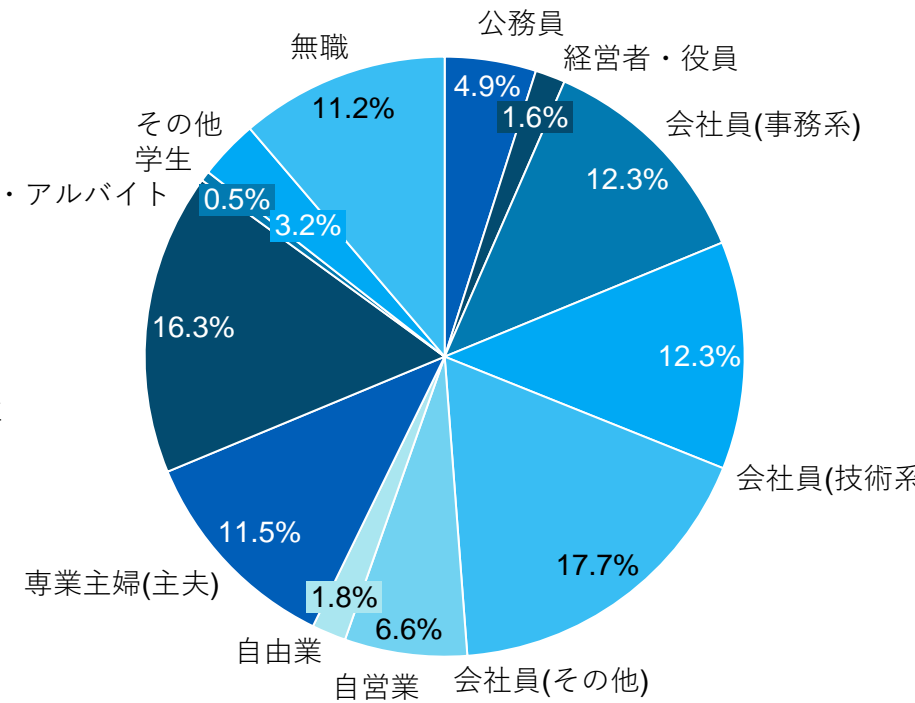


性別



職業

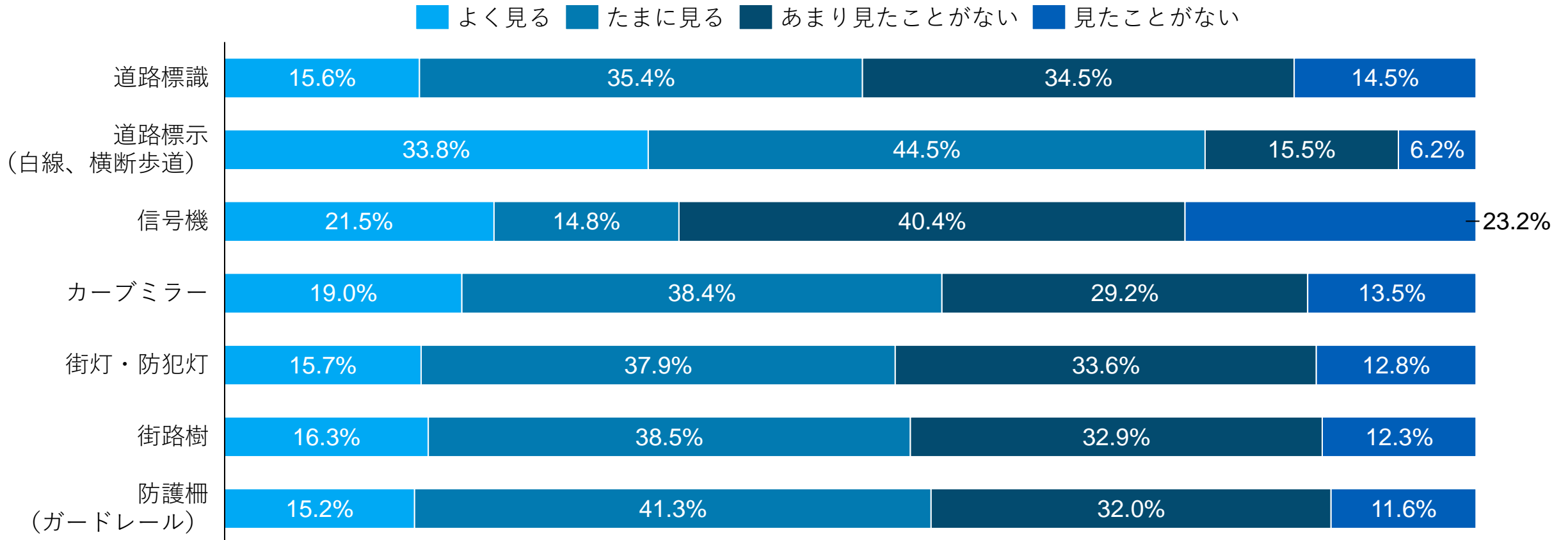
※値は%



老朽化した道路附属物の認知（道路附属物別）

- 最も見られている道路附属物は道路標示で、「よく見る」「たまに見る」の合計で**78.3%**。
- 信号機以外のその他附属物でも、「よく見る」「たまに見る」の合計が**50%**を超えている。

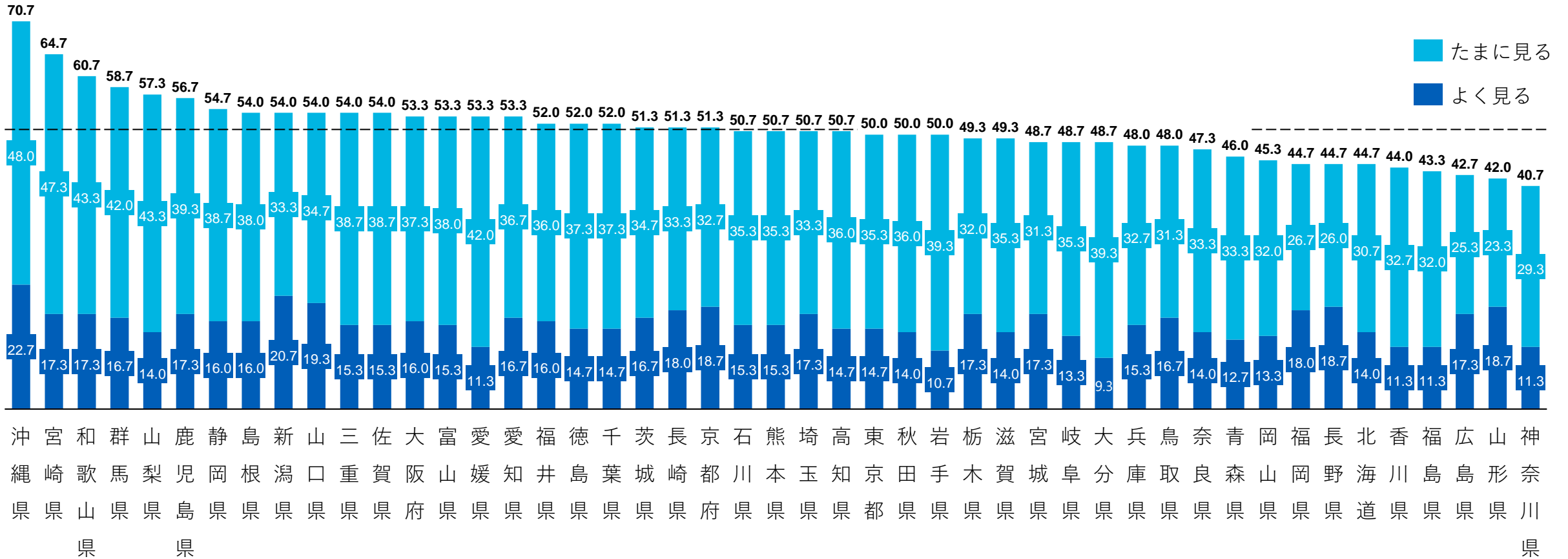
Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。



都道府県別での老朽化した道路附属物の認知（道路標識）

- 道路標識で最も老朽化が多く見られているのは昨年同様沖縄県で70.7%（「よく見る」「たまに見る」の合計）
- 同様に「よく見る」「たまに見る」の合計で最も低いのは神奈川県（40.7%）となった。

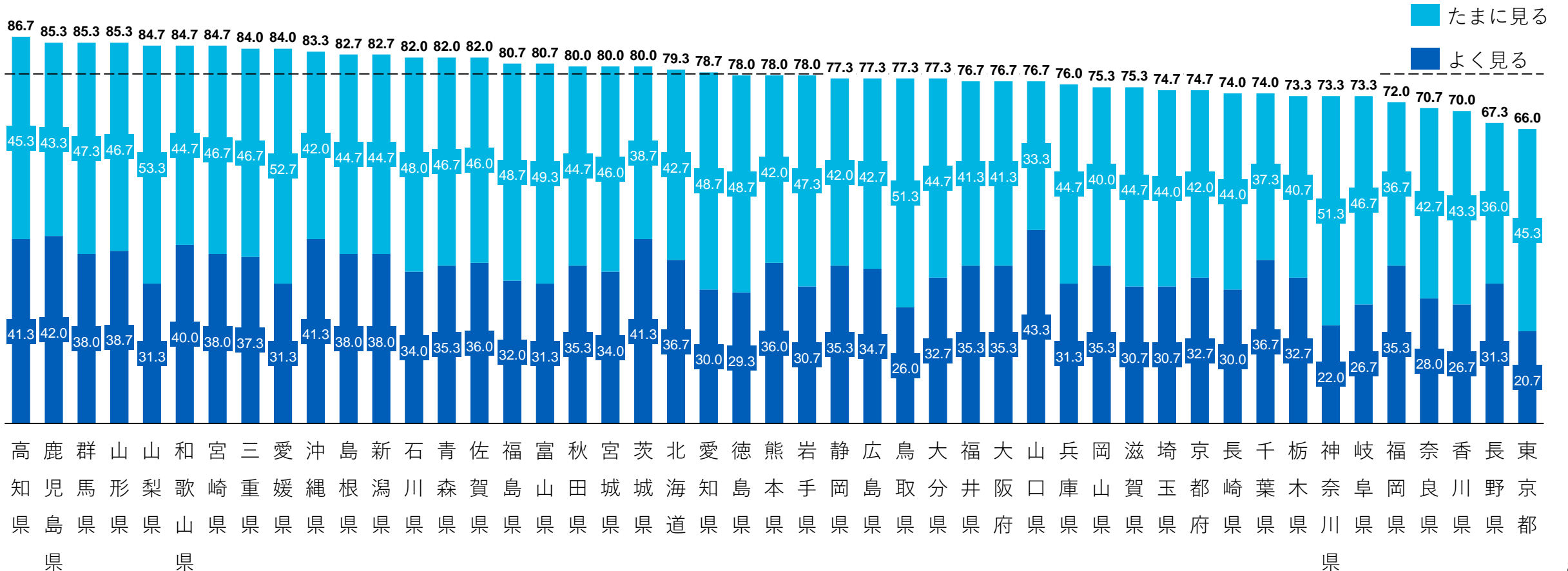
Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。 ※値は%
 道路標識の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計 ※「---」は平均値



都道府県別での老朽化した道路附属物の認知（道路標示）

- 道路標示で「よく見る」「たまに見る」の合計が最も高かったのは高知県の86.7%となった。
- 道路標識と比べると全都道府県で高い認知度になっており、都道府県間で大きな差はない。

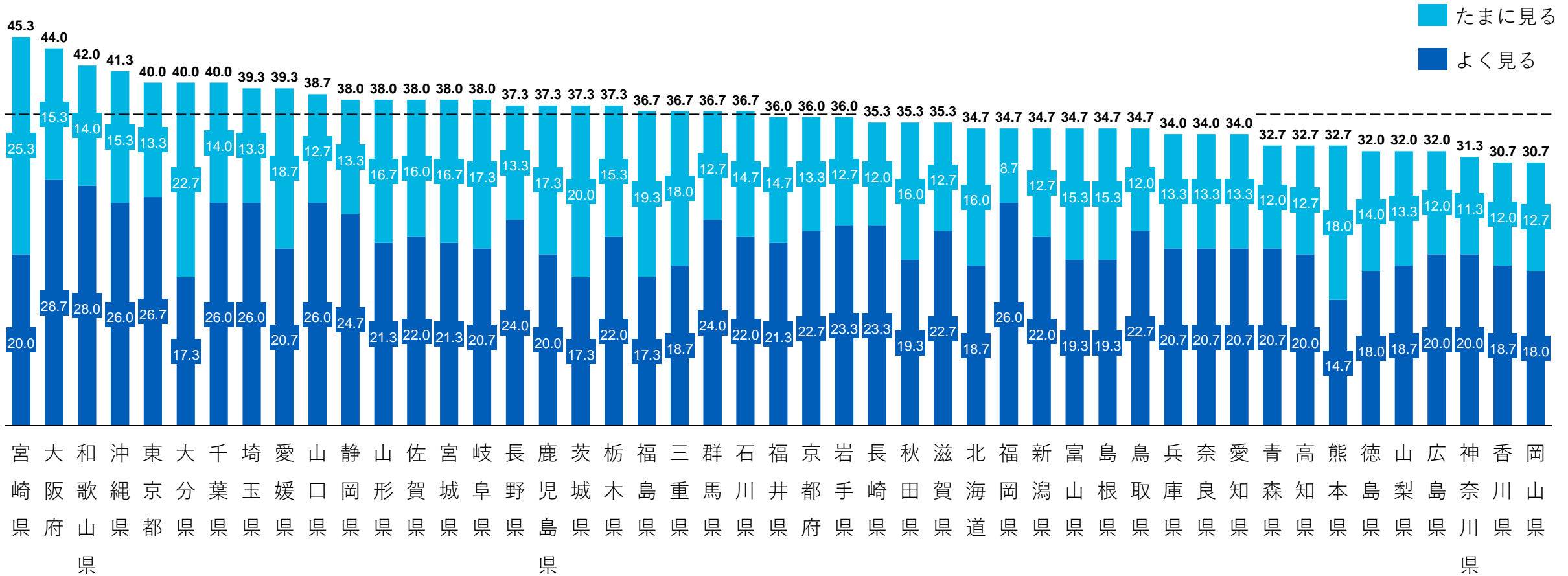
Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。 ※値は%
 道路標示（白線、横断歩道）の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計 ※「---」は平均値



都道府県別での老朽化した道路附属物の認知（信号機）

- 老朽化した信号機の認知度はほかの道路附属物と比較すると、全都道府県で低い傾向があった。
- 一番高かったのは宮崎県で「よく見る」「たまに見る」の合計が**45.3%**

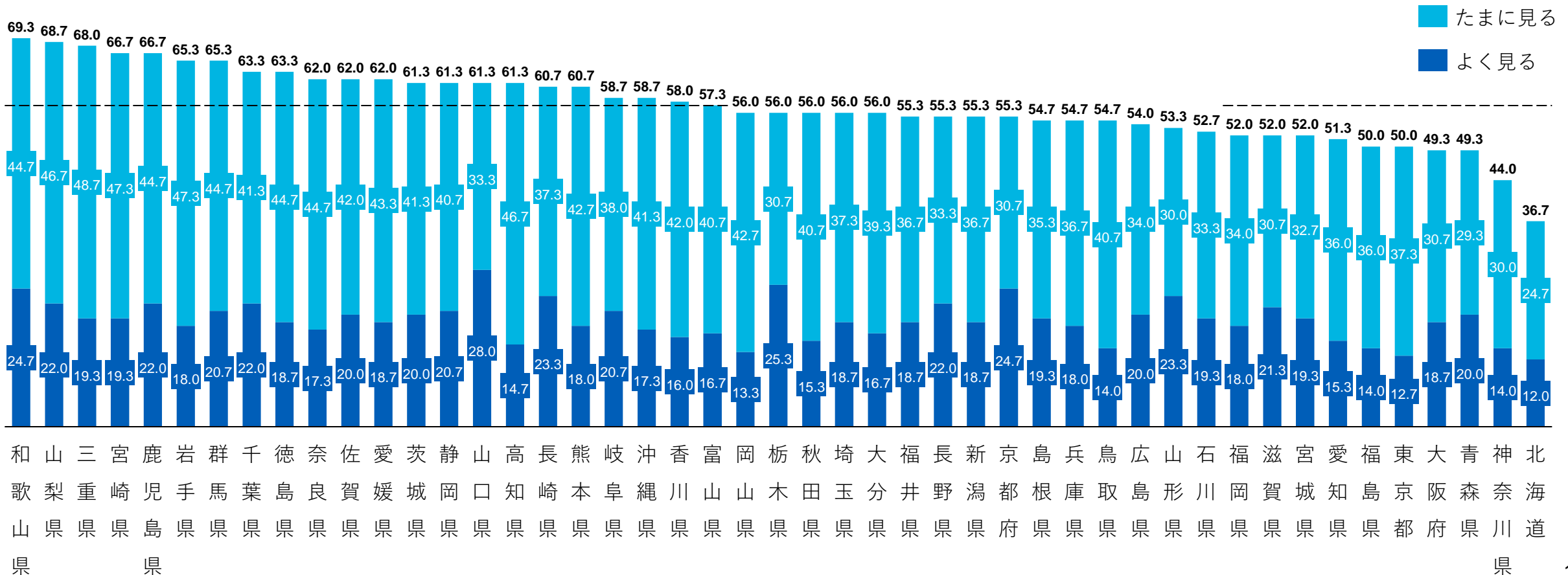
Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。 ※値は%
 信号機の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計 ※「---」は平均値



都道府県別での老朽化した道路附属物の認知（カーブミラー）

- 「よく見る」「たまに見る」の割合が一番高かったのは和歌山県（69.3%）。次点は昨年最も高かった山梨県となった。
- 昨年同様、カーブミラーの老朽化認知割合が一番低い北海道は平均値よりも20ポイントも低い結果となった。

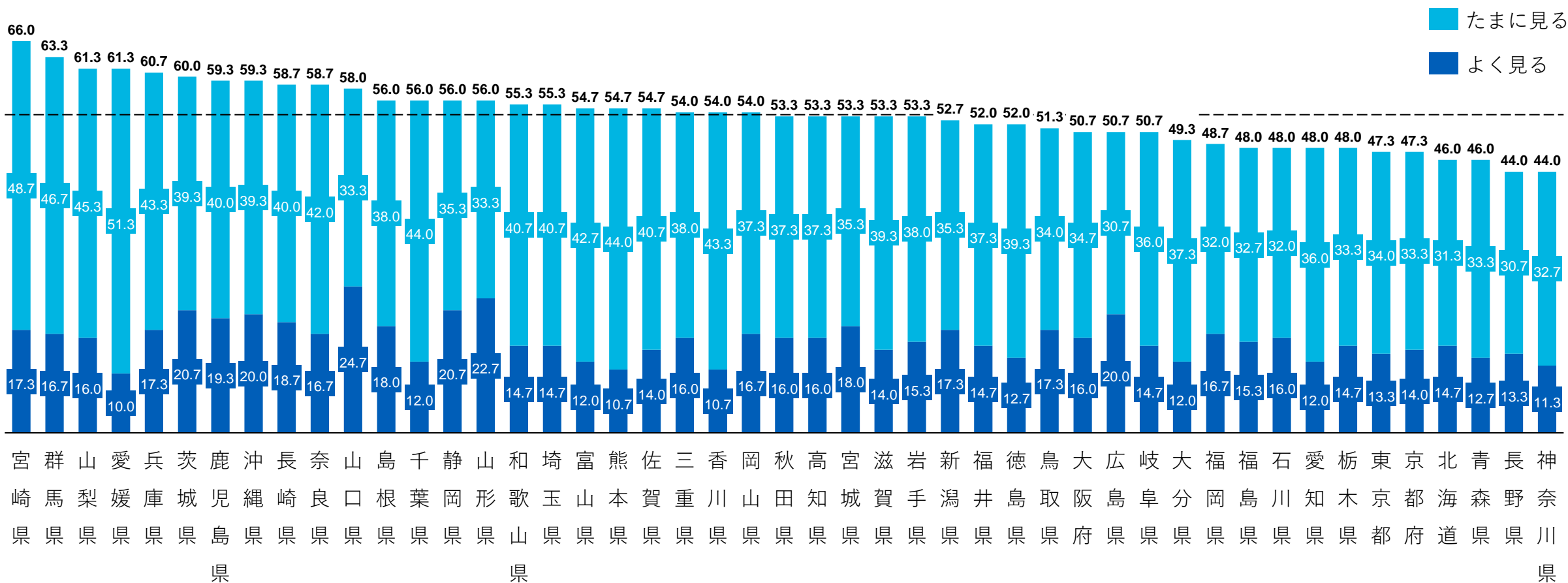
Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。 ※値は%
 カーブミラーの老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計 ※「---」は平均値



都道府県別での老朽化した道路附属物の認知（街灯・防犯灯）

- 信号機でも認知度が最も高かった宮崎県が街灯・防犯灯の老朽化認知度でも最も高く**66.0%**となったが、全体的には平均値に値が集まっている。

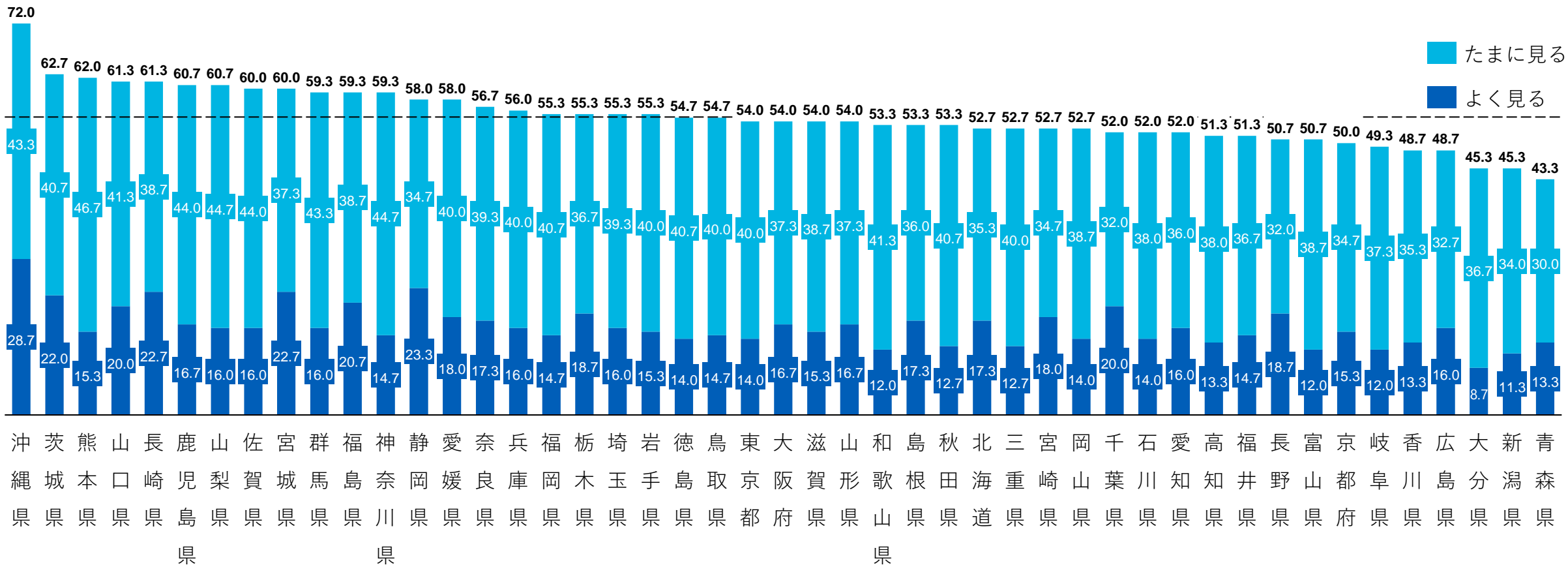
Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。 ※値は%
 街灯・防犯灯の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計 ※「---」は平均値



都道府県別での老朽化した道路附属物の認知（街路樹）

- 一番老朽化した街路樹が見られているのは昨年と同じく沖縄県（72.0%）で、平均値よりも18ポイント高く突出。
- 街灯と信号機で最も老朽化認知が高かった宮崎県は街路樹では平均値を下回る認知度となった。

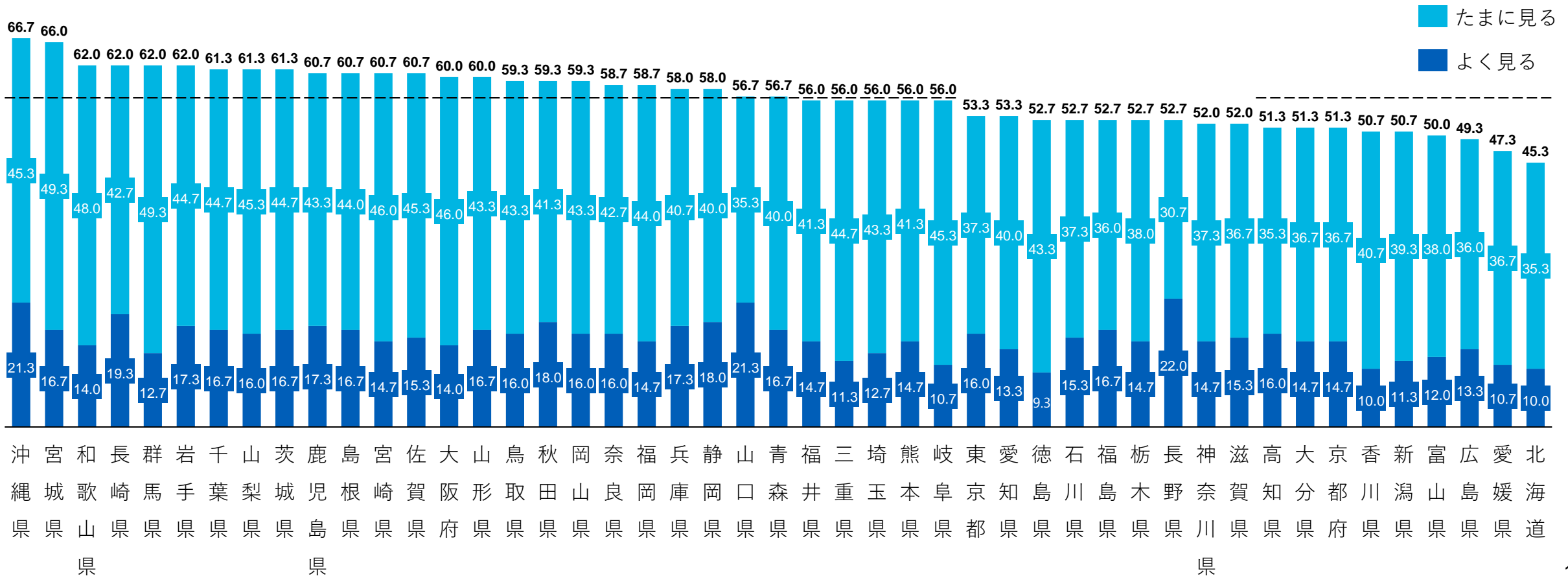
Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。 ※値は%
 街路樹の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計 ※「---」は平均値



都道府県別での老朽化した道路附属物の認知（防護柵）

- 沖縄県と宮城県で老朽化認知が突出して高い結果となった。
- 一番認知割合が低かったのは45.3%の北海道。

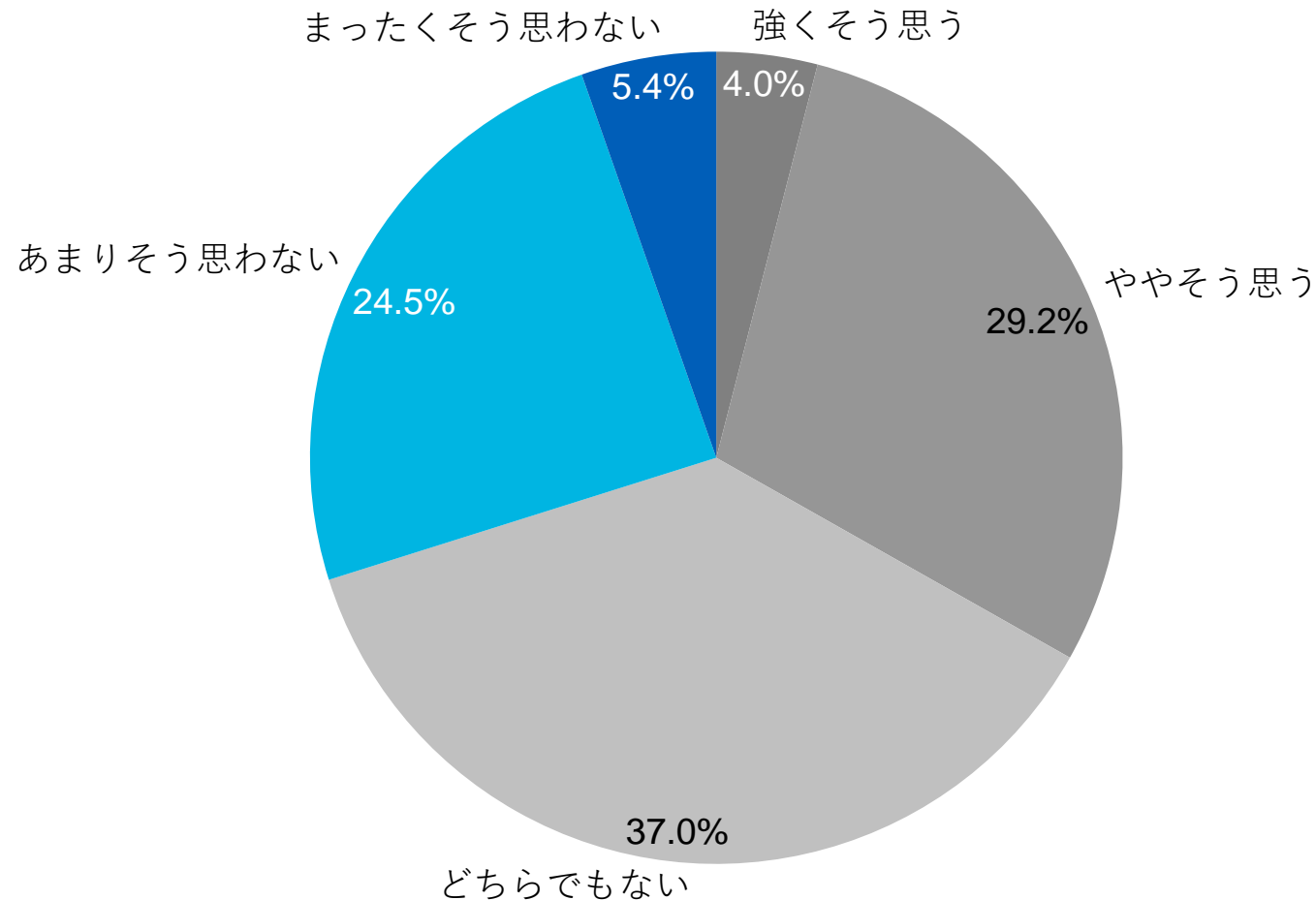
Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。 ※値は%
 防護柵の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計 ※「---」は平均値



道路附属物メンテナンスについての自治体取組み状況の認知

- 自治体による道路附属物のメンテナンス実施については「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した住民が**29.9%**となった。

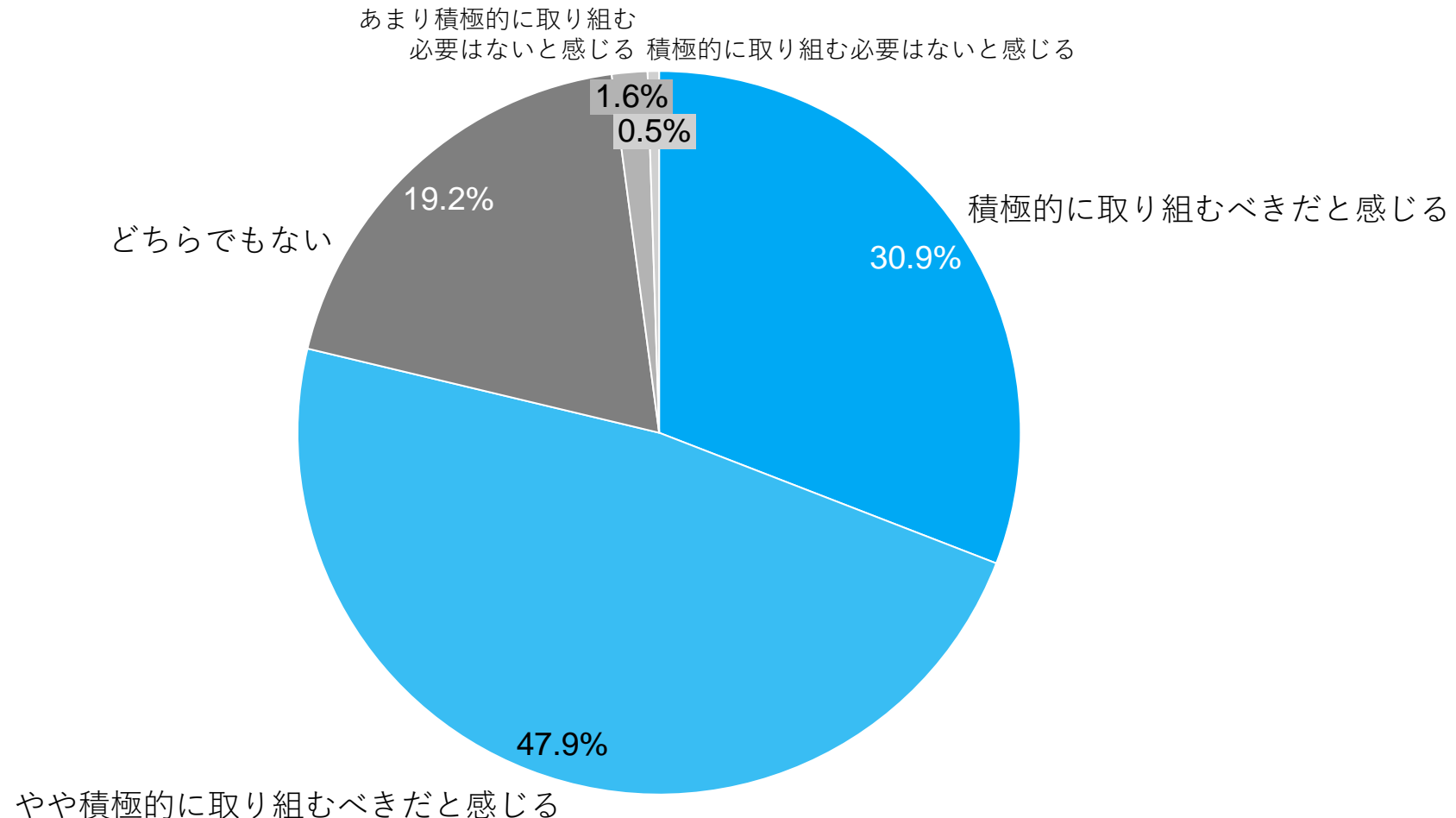
Q:お住まいの自治体が、道路附属物のメンテナンス（維持や修繕、更新）を実施していると感じますか。



自治体に対する道路附属物メンテナンスに関する要望

- 「積極的に取り組むべきだと感じる」「やや積極的に取り組むべきだと感じる」の合計は**78.8%**で、昨年と同様に約**8割**の住民が道路附属物のメンテナンスを望んでいるという結果となった。

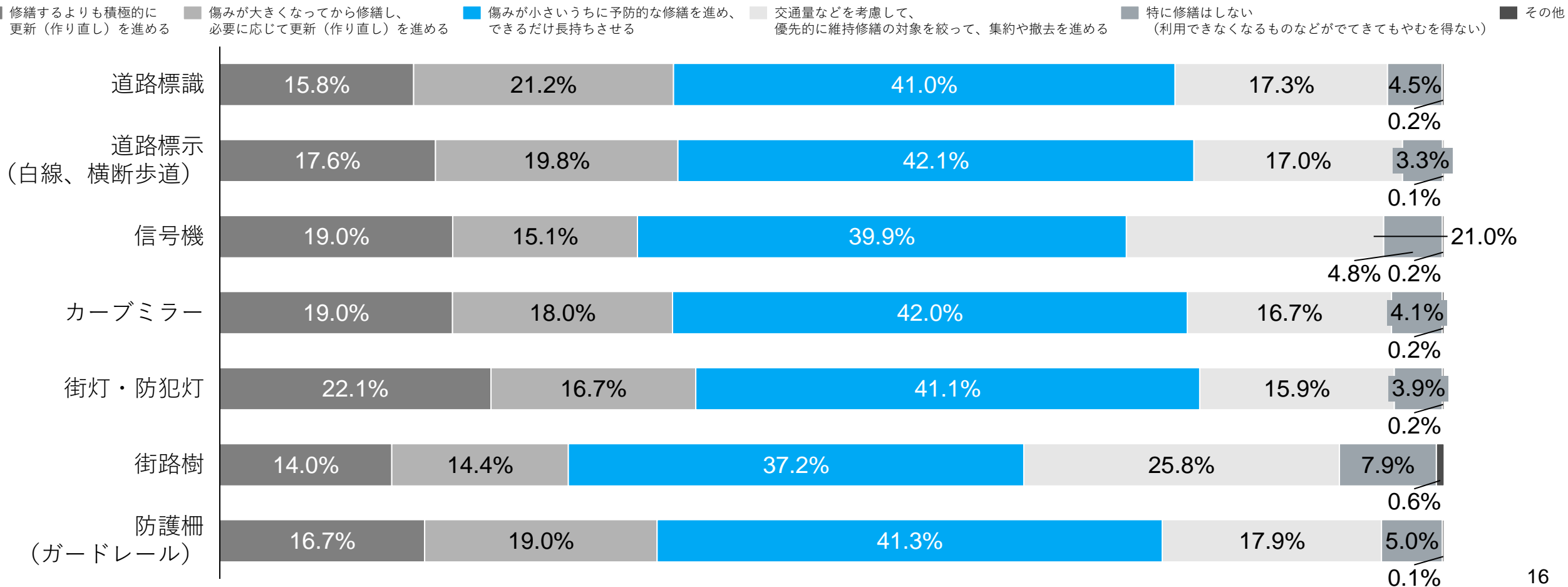
Q:お住まいの自治体が、道路附属物のメンテナンス（維持や修繕、更新）に積極的に取り組むべきだと思いますか。



自治体に望むメンテナンスへの取り組み方針

- 対象の道路附属物すべてで約4割の住民が「傷みが小さいうちに予防的な修繕を進め、できるだけ長持ちさせる」を回答。

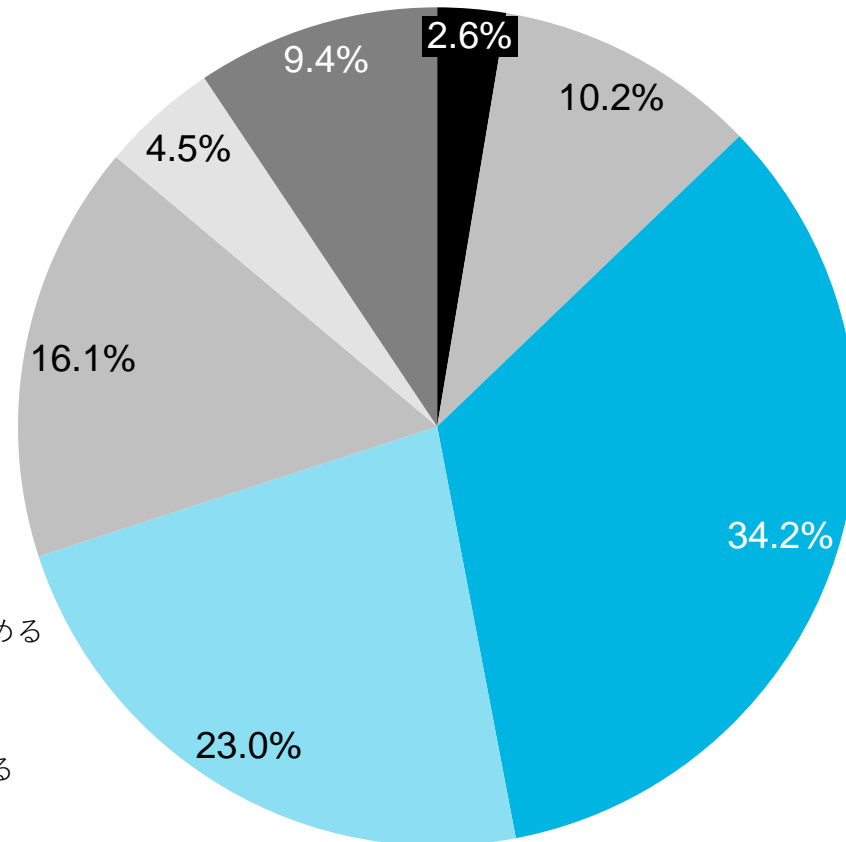
Q:今後自治体はどのように維持や修繕、更新を行うべきだと思いますか。



街路樹に関する管理方法

- 「劣化のサインを捉えて、その段階で剪定・捕植・更新を進める」「通学路など、人が多く通る道を頻度高く点検する」といった予防保全に関する取り組みを求める回答が約6割となった。

Q:街路樹の点検・管理に関して自治体へ求める管理方法として、あなたのお考えに最も近いものを1つだけお答えください。

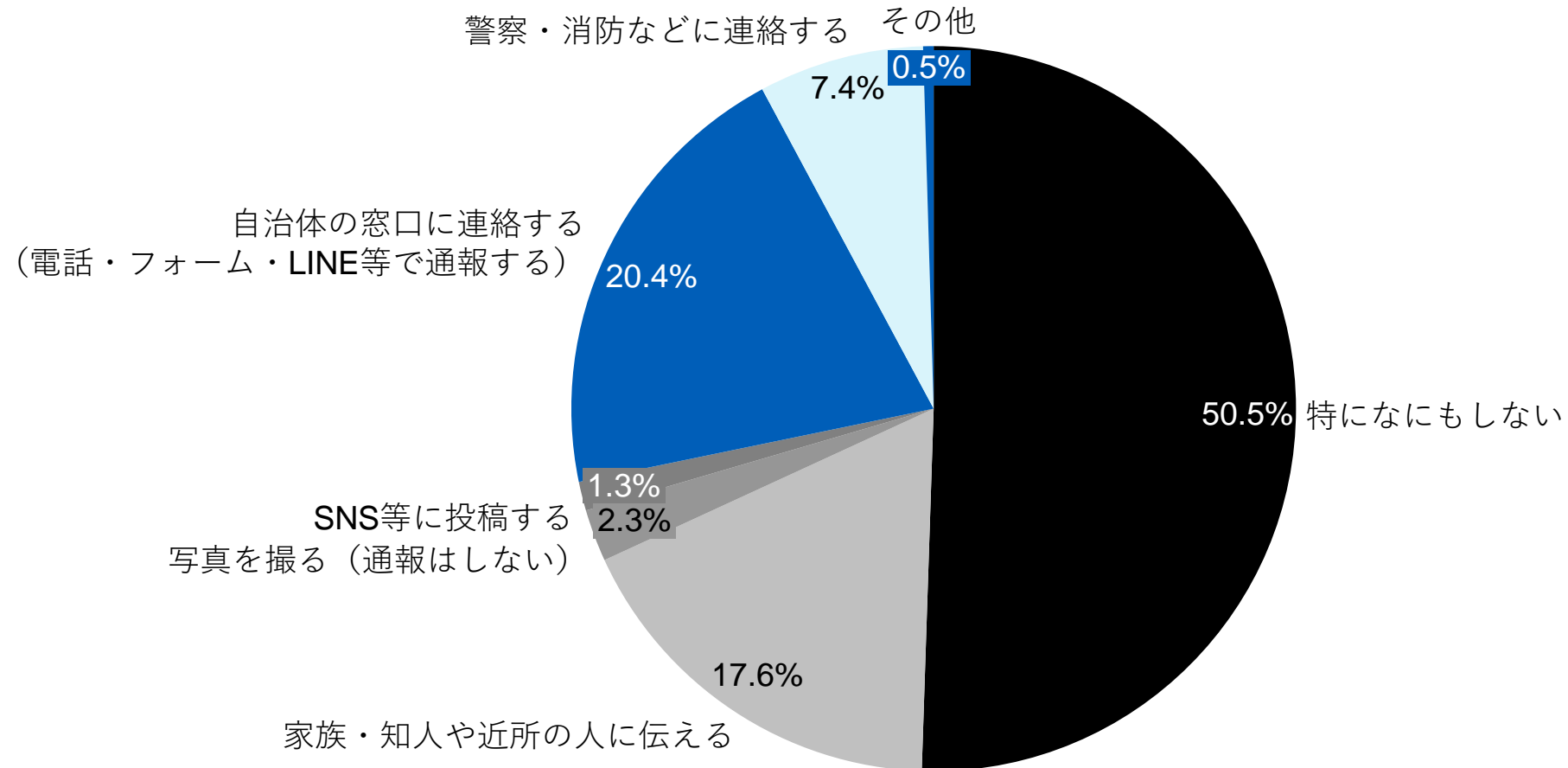


- 倒木・枝落ち等が起きた後に対応する
- 通報などがあった箇所を中心に点検・対応する
- 劣化のサインを捉えて、その段階で剪定・捕植・更新を進める
- 通学路など、人が多く通る道を頻度高く点検する
- 剪定・伐採を進めて必要最低限の街路樹にする
- 景観・環境価値を重視してできる限り今の街路樹を維持する
- この中であてはまるものはない

老朽化附属物を見かけた際の住民行動

- 「自治体の窓口で連絡する」の回答は2割にとどまり、半数が「特になにもしない」を回答。
- 住民通報のみを老朽化附属物の把握に活用するのは不十分と考えられる。

Q:メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況の道路附属物をあなたが見かけたとき、あなたが行い得る行動に最も近いものを1つだけお答えください。



参考) 近年の道路附属物事故一覧

事故発生年月	事故の概要
2024年2月	<ul style="list-style-type: none"> 東京都渋谷区道玄坂において歩道の街灯が倒れる。けが人はなし
2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> 仙台市泉区で区の管理する街路灯が乗用車に衝突し、40代女性がけが
2024年5月	<ul style="list-style-type: none"> 大分県日田市で道路標識がポールの根元から外れ、下校中の小学生がけが
2024年5月	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛県新居浜市の市道のカーブミラーが倒れ、近くを歩いていた小学生が軽いけが
2024年7月	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県静岡市において、市道の信号機支柱が倒れ反対車線を走っていた車に衝突
2024年9月	<ul style="list-style-type: none"> 東京都日野市のイチョウ並木で枝が折れて落下、歩いていた男性が下敷きになり死亡
2025年1月	<ul style="list-style-type: none"> 島根県出雲市で街灯の支柱が折れ、登校中の小学生にあたりけが
2025年5月	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府大阪市（中央区）で街路樹が倒れ停車中トラックに接触
2025年5月	<ul style="list-style-type: none"> 滋賀県の山あいを通る片側1車線の国道で複数の木が道路を塞ぐように倒れており、大型トラックが衝突し運転手が死亡
2026年1月	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県狭山市の国道299号で道路側の街路樹が倒壊。高齢者、児童を含む4人がケガ

All to brighten the world

FURUKAWA
ELECTRIC

ご清聴ありがとうございました

Thank You

古河電工グループ パーパス

「つづく」をつくり、
世界を明るくする。

